

フローリング 施工上の注意 総合カタログ

施工上の注意 | 無垢フローリング wood chef シリーズ

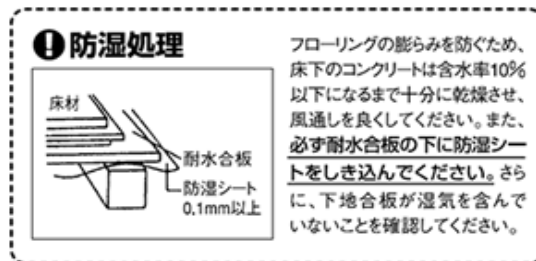
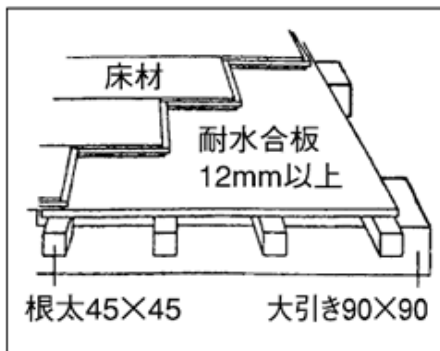
天然無垢材の性質上、空気中の水分を吸湿及び放出する働きがあります。そのため保管状況や使用環境によって、反り、割れ、狂いなどを引き起こす場合があります。よりよい施工とお施主様の快適な暮らしのために施工説明をよくご覧いただき、無垢材の特徴をご理解の上、ご検討ください。なお、これらを守って施工いただけない場合、製品の補修、交換などには応じかねます。

1. 施工前に確認

- 広葉樹の場合、その性質である膨張、収縮が施工後に起こることを防ぐために必ず開梱した状態で放置し、十分施工現場の環境に馴染ませて下さい。
- 当製品は、内装用です。外装には使用しないで下さい。
- 当製品は床暖房用ではありません。
- 換気口は充分ですか。(建築基準法施工例: 外壁の床壁部に、長さ5m以下毎に300cm²以上の換気口設置)
- 床下の換気が充分でない場合、施工後に暴れ、突き上げ、床鳴り等が発生する恐れがあります。
- 雨風の吹き込むことのないよう、サッシ部分等開口部の取り付け後に施工して下さい。

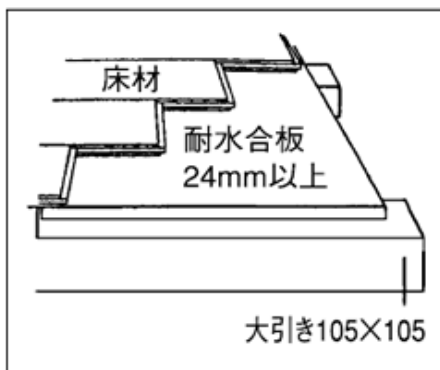
2. 下地施工 (根太あり)

- 大引きは90mm角以上、根太は45mm角以上の乾燥材を使用し、プランナーで平滑に仕上げてください。
- 大引き間隔は1000mmまたは3尺(910mm)、根太は1尺(303mm)とし、レベル(水平)を出して施工してください。
- 必ず合板の捨て貼りをし、合板は12mm以上の耐水合板を使用してください。また、捨て貼り合板同士の間は、2~3mmあけて施工してください。
- 0.1mm厚以上の防湿シートを根太と捨て貼り合板の間にしき込んで施工してください。
- フローリングは根太と直交するように施工し長手方向のジョイントは根太上に来るようにしてください。

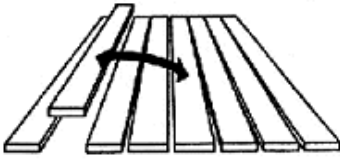


2. 下地施工 (根太なし)

- 大引きは105mm角以上の乾燥材を使用し、プランナーで平滑に仕上げてください。
 - 大引き間隔は1000mm又は3尺(910mm)とし、レベル(水平)を出して施工してください。
 - 必ず24mm以上の耐水合板を貼ってください。
 - 0.1mm厚以上の防湿シートを根太と捨て貼り合板の間にしき込んで施工してください。
- <マンション・集合住宅の場合>
置床において仕上げの場合、パーティクルボード20mmの上に12mm以上の合板の下貼り施工後、換気設備による全換気の実施をお願いします。



3. 仮並べ



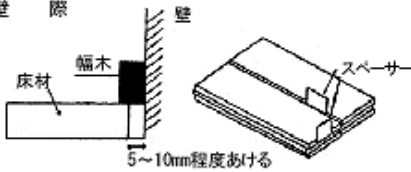
- 天然木のため一枚一枚異なります。貼り始める前に仮並べをし、色、柄のバランスをとって施工して下さい。
- パインフローリングは北欧基準のA品にあたります。多少の欠点(ヤニ筋、ヤニ壺、黒節・死節、欠け・抜け節、節割れ、軽微な割れ等)が含まれる場合があります。
- 極端に色、柄などおかしいものがあれば、貼らずにご相談下さい。

4. 割り付け

- 極端に小幅材がないよう、貼り込み前に割り付けを行って下さい。
- 下地合板のジョイント部分とフローリングのジョイント部分が重ならないようにして下さい。

5. 貼り込み

◆壁際



◆敷居・ドア枠・柱など すき間の確保



- 施工は必ず接着剤とフロア用ステープルの併用で行ってください。
- 接着剤はF☆☆☆☆認定の1液型ウレタン樹脂系接着剤を使用して下さい。
- 水溶性の接着剤は床鳴りの原因となるため使用しないでください。
- サネやその近接部には接着剤を使用しないでください。
- サネを強く叩き込み過ぎると、無垢材の性質上、反り、突き上げの原因となります。壁際は5~10mm程度、あけてください。
- はき出し窓サッシへの納め、又敷居(同面)納めの場合は敷居(同面)納めの場合は必ずクリアランスをとり、コーキング処理して下さい。
- 切断して使用される場合は、必ず切断面を再塗装(接着剤を塗布するなど)して下さい。

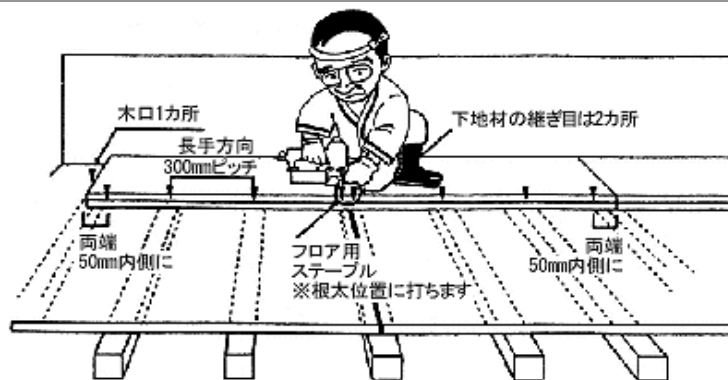
◆専用接着剤を床材裏面に塗布

◆接着剤が床表面についたら
すぐに拭く

①接着剤は硬化すると取れません。

②接着剤の塗布を誤ると施工後の反り、突き上げ、あはれ等の原因になります。

6. フロア用ステープルで固定



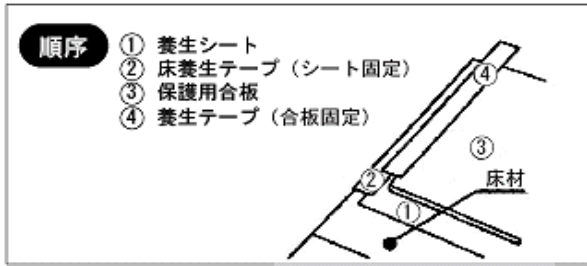
◆フロア用ステープルを打つ箇所

- ①ステープルを立てて打つと、オスザネ下部が破損し、メスザネが入りにくくなります。ステープルをねかしすぎると、表面にフクレがおこる場合があります。

◆フロア用ステープルの打ち方

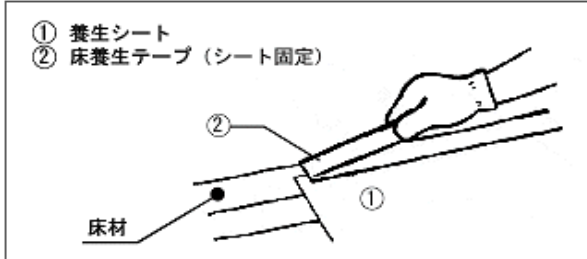
- ・約45°の角度で打つ
- ・ステープルの頭を沈める

7. 養生



- 施工後はごみをきれいに取り除いて、養生シートで養生して下さい。
- 壁ぎわは、石膏ボードの粉がたまりやすく、しかも木目に入るとほとんど取れません。壁ぎわまで隙間なく養生テープを貼って下さい。
- 床養生テープは必ず弱粘性(粘着力750g/25mm以下)のものをご使用ください。推奨品:光洋化学株式会社 カットエースUG
- 床養生テープを長期間貼ったままにしていると、テープを剥がす際にフローリング表面の塗膜が剥がれたり、のりが残ったり、毛羽立ちが大きくなります。また、日光が当たる箇所は同様の問題が起こりやすくなりますので、ご注意ください。

● やむを得ず長期間(1カ月以上)貼ったままにされる場合は、養生テープをフローリングに直接貼らないようにしてください。



● 床養生テープを取り除く際は、フローリング表面の塗膜剥離を起こす恐れがありますので、テープを床面と平行にしながらゆっくりと剥がして下さい。

● 先に保護用合板を固定するテープを剥がし、次に養生シートを固定するテープを剥がしてください。まとめて剥がそうとすると余分な負荷が加わり、フローリング表面の塗膜剥離を起こす恐れがあります。※以上の点を守っていただいた上で、万が一塗膜剥離が起きた場合はご連絡ください。その際、剥離部分が付着したテープは捨てずに保管していただくようお願いします。

<施工後に確認>

- 施工の際、傷が入っていませんか？
- 養生は完璧ですか？
- この説明書は必ず施主様にお渡し下さい。

8.初期メンテナンス

- 適切なワックスを塗布することにより、フローリングの表面を保護し、より長持ちさせることができます。
- ご使用のフローリングに適したワックスを選択し、容量用法をご確認の上で塗布してください。
- ご入居前後のお手入れを正しくおこなっていただくためにも、使用したワックスや塗料の名称等をお施主様にお伝えください。

施工上の注意 | 無垢フローリング UV塗装

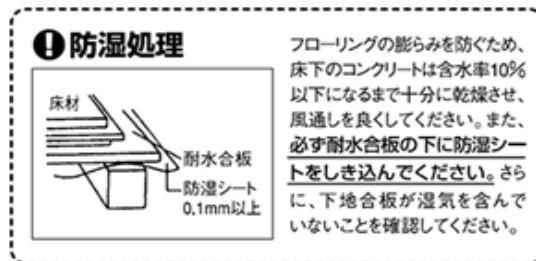
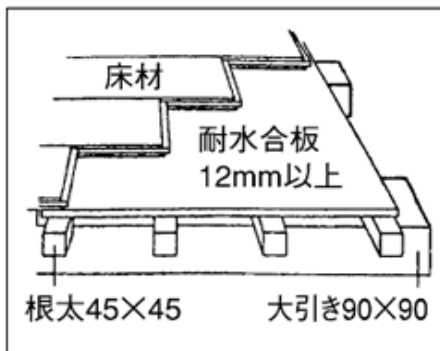
天然無垢材の性質上、空気中の水分を吸湿及び放出する働きがあります。そのため保管状況や使用環境によって、反り、割れ、狂いなどを引き起こす場合があります。よりよい施工とお施主様の快適な暮らしのために施工説明をよくご覧いただき、無垢材の特徴をご理解の上、ご検討ください。なお、これらを守って施工いただけない場合、製品の補修、交換などには応じかねます。

1. 施工前に確認

- 広葉樹の場合、その性質である膨張、収縮が施工後に起こることを防ぐために必ず開梱した状態で放置し、十分施工現場の環境に馴染ませて下さい。
- 当製品は、内装用です。外装には使用しないで下さい。
- 当製品は床暖房用ではありません。
- 換気口は充分ですか。(建築基準法施工例: 外壁の床壁部に、長さ5m以下毎に300cm²以上の換気口設置)
- 床下の換気が充分でない場合、施工後に暴れ、突き上げ、床鳴り等が発生する恐れがあります。
- 雨風の吹き込むことのないよう、サッシ部分等開口部の取り付け後に施工して下さい。

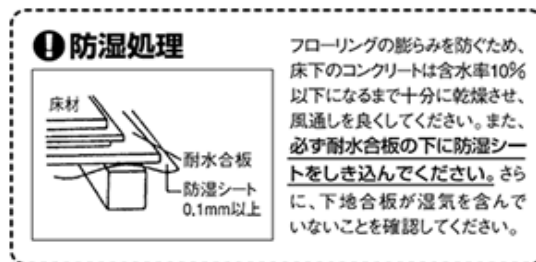
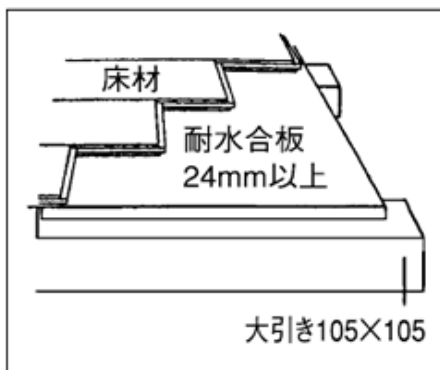
2. 下地施工 (根太あり)

- 大引きは90mm角以上、根太は45mm角以上の乾燥材を使用し、プランナーで平滑に仕上げてください。
- 大引き間隔は1000mmまたは3尺(910mm)、根太は1尺(303mm)とし、レベル(水平)を出して施工してください。
- 必ず合板の捨て貼りをし、合板は12mm以上の耐水合板を使用してください。また、捨て貼り合板同士の間は、2~3mmあけて施工してください。
- 0.1mm厚以上の防湿シートを根太と捨て貼り合板の間にしき込んで施工してください。
- フローリングは根太と直交するように施工し長手方向のジョイントは根太上に来るようにしてください。

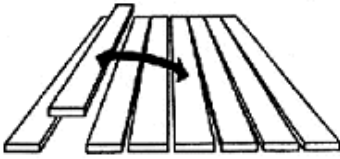


2. 下地施工 (根太なし)

- 大引きは105mm角以上の乾燥材を使用し、プランナーで平滑に仕上げてください。
 - 大引き間隔は1000mm又は3尺(910mm)とし、レベル(水平)を出して施工してください。
 - 必ず24mm以上の耐水合板を貼ってください。
 - 0.1mm厚以上の防湿シートを根太と捨て貼り合板の間にしき込んで施工してください。
- <マンション・集合住宅の場合>
置床において仕上げの場合、パーティクルボード20mmの上に12mm以上の合板の下貼り施工後、換気設備による全換気の実施をお願いします。



3. 仮並べ



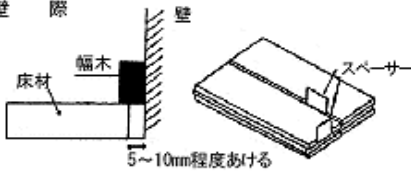
- 天然木のため一枚一枚異なります。貼り始める前に仮並べをし、色、柄のバランスをとって施工して下さい。
- パインフローリングは北欧基準のA品にあたります。多少の欠点(ヤニ筋、ヤニ壺、黒節・死節、欠け・抜け節、節割れ、軽微な割れ等)が含まれる場合があります。
- 極端に色、柄などおかしいものがあれば、貼らずにご相談下さい。

4. 割り付け

- 極端に小幅材がこないよう、貼り込み前に割り付けを行って下さい。
- 下地合板のジョイント部分とフローリングのジョイント部分が重ならないようにして下さい。

5. 貼り込み

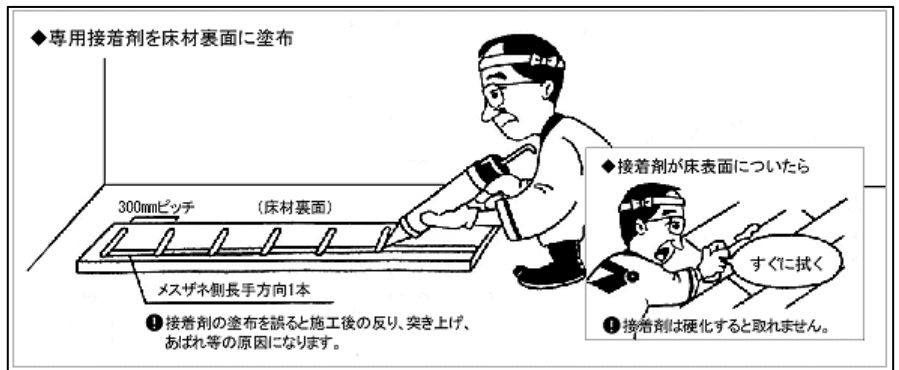
◆壁際



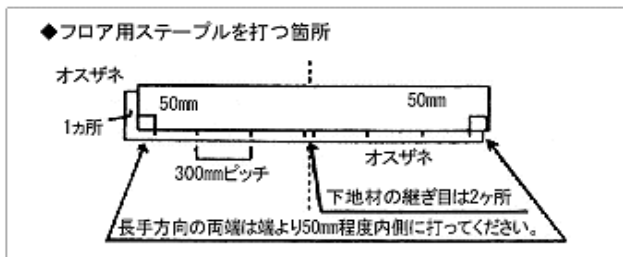
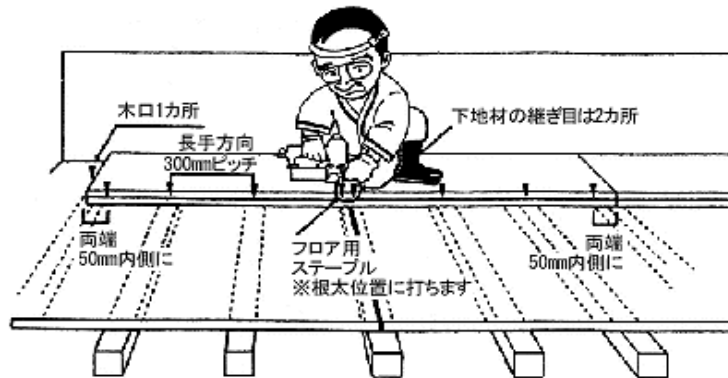
◆敷居・ドア枠・柱など すき間の確保



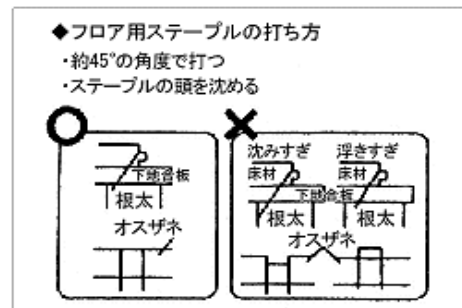
- 施工は必ず接着剤とフロア用ステープルの併用で行ってください。
- 接着剤はF☆☆☆☆認定の1液型ウレタン樹脂系接着剤を使用して下さい。
- 水溶性の接着剤は床鳴りの原因となるため使用しないでください。
- サネやその近接部には接着剤を使用しないでください。
- サネを強く叩き込み過ぎると、無垢材の性質上、反り、突き上げの原因となります。必ず同梱包の「スペーサー」を使って、ジョイント部にクリアランスをとってください。また壁際は5~10mm程度、あけてください。
- はき出し窓サッシへの納め、又敷居(同面)納めの場合は必ずクリアランスをとり、コーキング処理して下さい。



6. フロア用ステープルで固定



- ①ステープルを立てて打つと、オスザネ下部が破損し、メスザネが入りにくくなります。ステープルをねかしすぎると、表面にフクレがおこる場合があります。

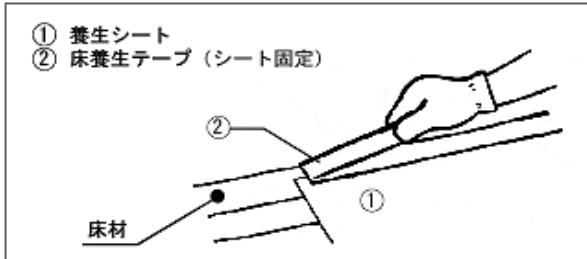


7. 養生



- 施工後はごみをきれいに取り除いて、養生シートで養生して下さい。
- 壁ぎわは、石膏ボードの粉がたまりやすく、しかも木目に入るとほとんど取れません。壁ぎわまで隙間なく養生テープを貼って下さい。
- 床養生テープは必ず弱粘性(粘着力750g/25mm以下)のものをご使用ください。推奨品: 光洋化学株式会社 カットエースUG
- 床養生テープを長期間貼ったままにしていると、テープを剥がす際にフローリング表面の塗膜が剥がれたり、のりが残ったり、毛羽立ちが大きくなります。また、日光が当たる箇所は同様の問題が起こりやすくなりますので、ご注意ください。

● やむを得ず長期間(1カ月以上)貼ったままにされる場合は、養生テープをフローリングに直接貼らないようにして下さい。



● 床養生テープを取り除く際は、フローリング表面の塗膜剥離を起こす恐れがありますので、テープを床面と平行にしながらくっきりと剥がして下さい。

● 先に保護用合板を固定するテープを剥がし、次に養生シートを固定するテープを剥がして下さい。まとめて剥がそうとすると余分な負荷が加わり、フローリング表面の塗膜剥離を起こす恐れがあります。

※以上の点を守っていただいた上で、万が一塗膜剥離が起きた場合はご連絡ください。その際、剥離部分が付着したテープは捨てずに保管していただくようお願いします。

<施工後に確認>

- 施工の際、傷が入っていませんか？
- 養生は完璧ですか？
- この説明書は必ず施主様にお渡し下さい。

8.初期メンテナンス

- 適切なワックスを塗布することにより、フローリングの表面を保護し、より長持ちさせることができます。
- ご使用のフローリングに適したワックスを選択し、容量用法をご確認の上で塗布して下さい。
- ご入居前後のお手入れを正しくおこなっていただくためにも、使用したワックスや塗料の名称等をお施主様にお伝えください。

施工上の注意 | HARD WOOD フローリング 自然/オイル塗装

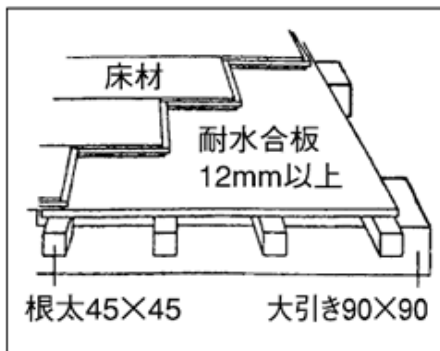
天然無垢材の性質上、空気中の水分を吸湿及び放出する働きがあります。そのため保管状況や使用環境によって、反り、割れ、狂いなどを引き起こす場合があります。よりよい施工とお施主様の快適な暮らしのために施工説明をよくご覧いただき、無垢材の特徴をご理解の上、ご検討ください。なお、これらを守って施工いただけない場合、製品の補修、交換などには応じかねます。

1. 施工前に確認

- 広葉樹の場合、その性質である膨張、収縮が施工後に起こることを防ぐために必ず開梱した状態で放置し、十分施工現場の環境に馴染ませて下さい。
- 当製品は、内装用です。外装には使用しないで下さい。
- 当製品は床暖房用ではありません。
- 換気口は充分ですか。(建築基準法施工例: 外壁の床壁部に、長さ5m以下毎に300cm²以上の換気口設置)
- 床下の換気が充分でない場合、施工後に暴れ、突き上げ、床鳴り等が発生する恐れがあります。
- 雨風の吹き込むことのないよう、サッシ部分等開口部の取り付け後に施工して下さい。

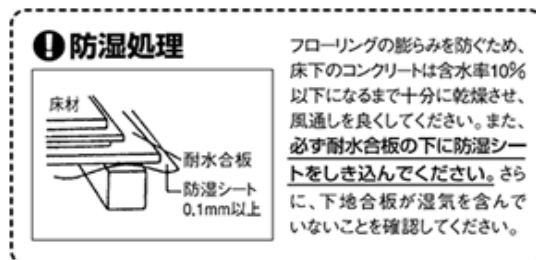
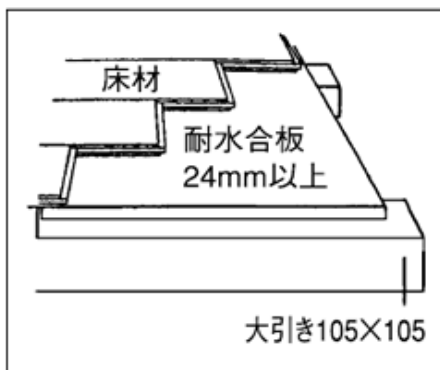
2. 下地施工 (根太あり)

- 大引きは90mm角以上、根太は45mm角以上の乾燥材を使用し、プランナーで平滑に仕上げてください。
- 大引き間隔は1000mmまたは3尺(910mm)、根太は1尺(303mm)とし、レベル(水平)を出して施工してください。
- 必ず合板の捨て貼りをし、合板は12mm以上の耐水合板を使用してください。また、捨て貼り合板同士の間は、2~3mmあけて施工してください。
- 0.1mm厚以上の防湿シートを根太と捨て貼り合板の間にしき込んで施工してください。
- フローリングは根太と直交するように施工し長手方向のジョイントは根太上に来るようにしてください。



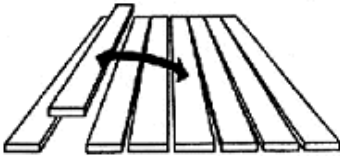
2. 下地施工 (根太なし)

- 大引きは105mm角以上の乾燥材を使用し、プランナーで平滑に仕上げてください。
 - 大引き間隔は1000mm又は3尺(910mm)とし、レベル(水平)を出して施工してください。
 - 必ず24mm以上の耐水合板を貼ってください。
 - 0.1mm厚以上の防湿シートを根太と捨て貼り合板の間にしき込んで施工してください。
- <マンション・集合住宅の場合>
置床において仕上げの場合、パーティクルボード20mmの上に12mm以上の合板の下貼り施工後、換気設備による全換気の実施をお願いします。



3. 仮並べ

- 天然木のため一枚一枚異なります。貼り始める前に仮並べをし、色、柄のバランスをとって施工して下さい。
- パインフローリングは北欧基準のA品にあたります。多少の欠点(ヤニ筋、ヤニ壺、黒節・死節、欠け・抜け節、節割れ、軽微な割れ等)が含まれる場合があります。
- 極端に色、柄などおかしいものがあれば、貼らずにご相談下さい。

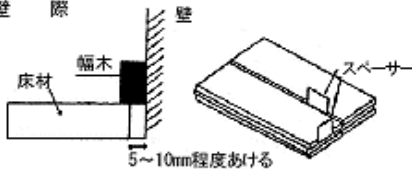


4. 割り付け

- 極端に小幅材がこないよう、貼り込み前に割り付けを行って下さい。
- 下地合板のジョイント部分とフローリングのジョイント部分が重ならないようにして下さい。

5. 貼り込み

◆壁際



◆敷居・ドア枠・柱など すき間の確保

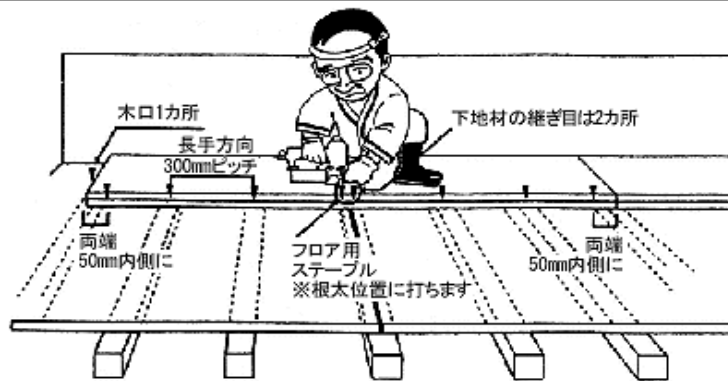


- 施工は必ず接着剤とフロア用ステーブルの併用で行ってください。
- 接着剤はF☆☆☆☆認定の1液型ウレタン樹脂系接着剤を使用して下さい。
- 水溶性の接着剤は床鳴りの原因となるため使用しないでください。
- サネやその近接部には接着剤を使用しないでください。
- サネを強く叩き込み過ぎると、無垢材の性質上、反り、突き上げの原因となります。必ず同梱包の「スペーサー」を使って、ジョイント部にクリアランスをとってください。また壁際は5~10mm程度、あけてください。
- はき出し窓サッシへの納め、又敷居(同面)納めの場合は必ずクリアランスをとり、コーキング処理して下さい。

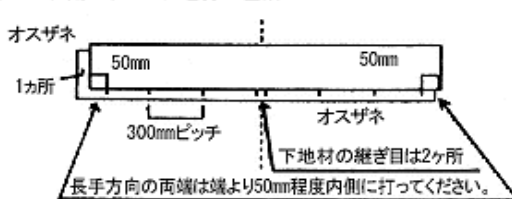
◆専用接着剤を床材裏面に塗布



6. フロア用ステーブルで固定



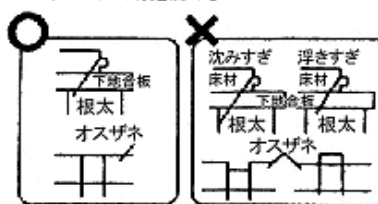
◆フロア用ステーブルを打つ箇所



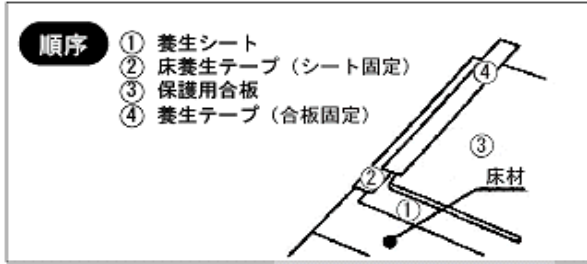
- ①ステープルを立てて打つと、オスザネ下部が破損し、メスザネが入りにくくなります。ステープルをねかしすぎると、表面にフクレがおこる場合があります。

◆フロア用ステーブルの打ち方

- ・約45°の角度で打つ
- ・ステープルの頭を沈める

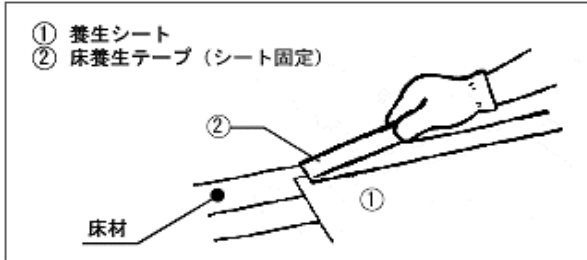


7.養生



- 施工後はごみをきれいに取り除いて、養生シートで養生して下さい。
- 壁ぎわは、石膏ボードの粉がたまりやすく、しかも木目に入るとほとんど取れません。壁ぎわまで隙間なく養生テープを貼って下さい。
- 床養生テープは必ず弱粘性（粘着力750g/25mm以下）のものをご使用ください。推奨品：光洋化学株式会社 カットエースUG
- 床養生テープを長期間貼ったままにしていると、テープを剥がす際にフローリング表面の塗膜が剥がれたり、のりが残ったり、毛羽立ちが大きくなります。また、日光が当たる箇所は同様の問題が起こりやすくなりますので、ご注意ください。

● エコプレーゼなどオイル塗装品は特に表面破損や変色が起こりやすいため、絶対に床養生テープをフローリングに直接貼らず、養生ボード等を使用してください。



● 床養生テープを取り除く際は、フローリング表面の塗膜剥離を起こす恐れがありますので、テープを床面と平行にしながらくっきりと剥がして下さい。

● 先に保護用合板を固定するテープを剥がし、次に養生シートを固定するテープを剥がしてください。まとめて剥がそうとすると余分な負荷が加わり、フローリング表面の塗膜剥離を起こす恐れがあります。※以上の点を守っていただいた上で、万が一塗膜剥離が起きた場合はご連絡ください。その際、剥離部分が付着したテープは捨てずに保管していただくようお願いします。

<施工後に確認>

- 施工の際、傷が入っていませんか？
- 養生は完璧ですか？
- この説明書は必ず施主様にお渡し下さい。

8.初期メンテナンス

- 適切なワックスを塗布することにより、フローリングの表面を保護し、より長持ちさせることができます。
- ご使用のフローリングに適したワックスを選択し、容量用法をご確認の上で塗布してください。
- ご入居前後のお手入れを正しくおこなっていただくためにも、使用したワックスや塗料の名称等をお施主様にお伝えください。

施工上の注意 | SOFT WOOD フローリング 自然/オイル塗装

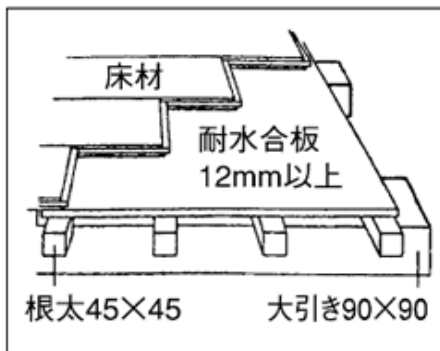
天然無垢材の性質上、空気中の水分を吸湿及び放出する働きがあります。そのため保管状況や使用環境によって、反り、割れ、狂いなどを引き起こす場合があります。よりよい施工とお施主様の快適な暮らしのために施工説明をよくご覧いただき、無垢材の特徴をご理解の上、ご検討ください。なお、これらを守って施工いただけない場合、製品の補修、交換などには応じかねます。

1. 施工前に確認

- 針葉樹の場合、開梱後に長時間放置されますと、施工現場の環境により、反り、曲がり表面割れなどが発生する恐れがあります。ご注意ください。
- 当製品は、内装用です。外装には使用しないで下さい。
- 当製品は床暖房用ではありません。
- 換気口は充分ですか。(建築基準法施工例: 外壁の床壁部に、長さ5m以下毎に300cm²以上の換気口設置)
- 床下の換気が充分でない場合、施工後に暴れ、突き上げ、床鳴り等が発生する恐れがあります。
- 雨風の吹き込むことのないよう、サッシ部分等開口部の取り付け後に施工して下さい。

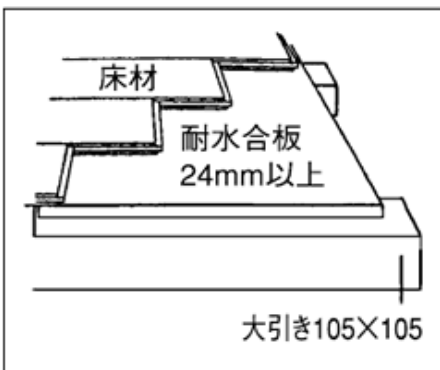
2. 下地施工 (根太あり)

- 大引きは90mm角以上、根太は45mm角以上の乾燥材を使用し、プランナーで平滑に仕上げてください。
- 大引き間隔は1000mmまたは3尺(910mm)、根太は1尺(303mm)とし、レベル(水平)を出して施工してください。
- 必ず合板の捨て貼りをし、合板は12mm以上の耐水合板を使用してください。また、捨て貼り合板同士の間は、2~3mmあけて施工してください。
- 0.1mm厚以上の防湿シートを根太と捨て貼り合板の間にしき込んで施工してください。
- フローリングは根太と直交するように施工し長手方向のジョイントは根太上に来るようにしてください。



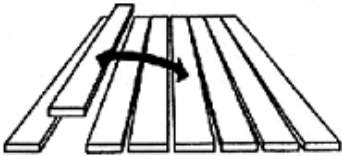
2. 下地施工 (根太なし)

- 大引きは105mm角以上の乾燥材を使用し、プランナーで平滑に仕上げてください。
 - 大引き間隔は1000mm又は3尺(910mm)とし、レベル(水平)を出して施工してください。
 - 必ず24mm以上の耐水合板を貼ってください。
 - 0.1mm厚以上の防湿シートを根太と捨て貼り合板の間にしき込んで施工してください。
- <マンション・集合住宅の場合>
置床において仕上げの場合、パーティクルボード20mmの上に12mm以上の合板の下貼り施工後、換気設備による全般換気の実施をお願いします。



3. 仮並べ

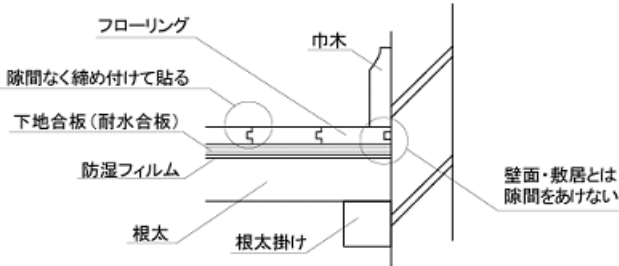
- 天然木のため一枚一枚異なります。貼り始める前に仮並べをし、色、柄のバランスをとって施工して下さい。
- パインフローリングは北欧基準のA品にあたります。多少の欠点(ヤニ筋、ヤニ壺、黒節・死節、欠け・抜け節、節割れ、軽微な割れ等)が含まれる場合があります。
- 極端に色、柄などおかしいものがあれば、貼らずにご相談下さい。



4. 割り付け

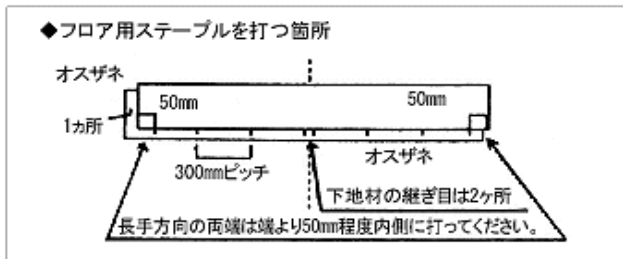
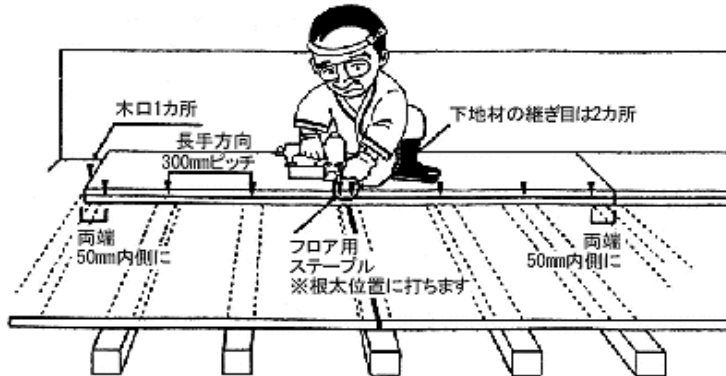
- 極端に小幅材がこないよう、貼り込み前に割り付けを行って下さい。
- 下地合板のジョイント部分とフローリングのジョイント部分が重ならないようにして下さい。

5. 貼り込み

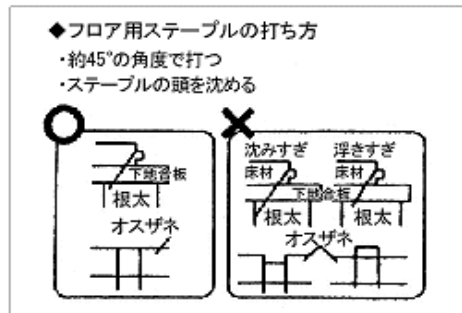


- 各フローリングは隙間を設けず締め付けて貼り上げて下さい。
- 壁面(敷居や框が壁面となる場合も)と隙間を設けず貼り上げて下さい。
- フロア用ステーブルをご使用下さい。
- 接着剤を併用される場合、F☆☆☆☆認定の1液型ウレタン樹脂系接着剤を使用して下さい。
- 水溶性の接着剤は床鳴りの原因となるため使用しないでください。
- サネやその近接部には接着剤を使用しないでください。

6. フロア用ステーブルで固定



① ステーブルを立てて打つと、オスザネ下部が破損し、メスザネが入りにくくなります。ステーブルをねかしすぎると、表面にフクレがおこる場合があります。



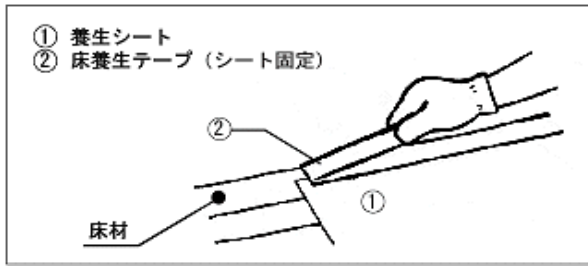
7. 養生



- 施工後はごみをきれいに取り除いて、養生シートで養生して下さい。
- 壁ぎわは、石膏ボードの粉がたまりやすく、しかも木目に入るとほとんど取れません。壁ぎわまで隙間なく養生テープを貼って下さい。

- 床養生テープは必ず弱粘性(粘着力750g/25mm以下)のものをご使用ください。推奨品: 光洋化学株式会社 カットエースUG
- 床養生テープを長期間貼ったままにしていると、テープを剥がす際にフローリング表面の塗膜が剥がれたり、のりが残ったり、毛羽立ちが大きくなります。また、日光が当たる箇所は同様の問題が起こりやすくなりますので、ご注意ください。

- やむを得ず長期間(1か月以上)貼ったままにされる場合は、養生テープをフローリングに直接貼らないようにして下さい。
- エコプレーゼなどオイル塗装品は特に表面破損や変色が起こりやすいため、絶対に床養生テープをフローリングに直接貼らず、養生ボード等を使用して下さい。



●床養生テープを取り除す際は、フローリング表面の塗膜剥離を起こす恐れがありますので、テープを床面と平行にしながらゆっくりと剥がして下さい。

●先に保護用合板を固定するテープを剥がし、次に養生シートを固定するテープを剥がして下さい。まとめて剥がそうとすると余分な負荷が加わり、フローリング表面の塗膜剥離を起こす恐れがあります。※以上の点を守っていただいた上で、万が一塗膜剥離が起きた場合はご連絡ください。その際、剥離部分が付着したテープは捨てずに保管していただくようお願いします。

<施工後に確認>

- 施工の際、傷が入っていませんか？
- 養生は完璧ですか？
- この説明書は必ず施主様にお渡し下さい。

8.初期メンテナンス

- 適切なワックスを塗布することにより、フローリングの表面を保護し、より長持ちさせることができます。
- ご使用のフローリングに適したワックスを選択し、容量用法をご確認の上で塗布してください。
- ご入居前後のお手入れを正しくおこなっていただくためにも、使用したワックスや塗料の名称等をお施主様にお伝えください。

施工上の注意 | HARD WOOD フローリング 無塗装

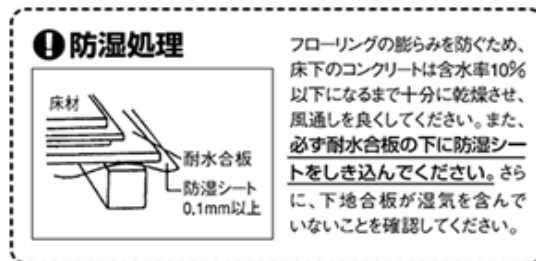
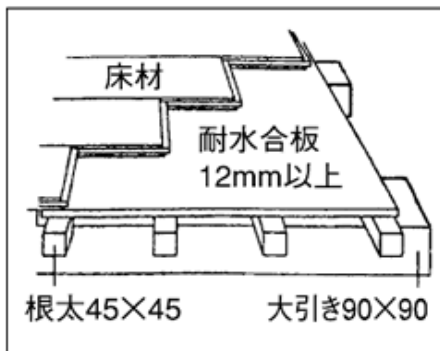
天然無垢材の性質上、空気中の水分を吸湿及び放出する働きがあります。そのため保管状況や使用環境によって、反り、割れ、狂いなどを引き起こす場合があります。よりよい施工とお施主様の快適な暮らしのために施工説明をよくご覧いただき、無垢材の特徴をご理解の上、ご検討ください。なお、これらを守って施工いただけない場合、製品の補修、交換などには応じかねます。

1. 施工前に確認

- 広葉樹の場合、その性質である膨張、収縮が施工後に起こることを防ぐために必ず開梱した状態で放置し、十分施工現場の環境に馴染ませて下さい。
- 当製品は、内装用です。外装には使用しないで下さい。
- 当製品は床暖房用ではありません。
- 換気口は充分ですか。(建築基準法施工例: 外壁の床壁部に、長さ5m以下毎に300cm²以上の換気口設置)
- 床下の換気が充分でない場合、施工後に暴れ、突き上げ、床鳴り等が発生する恐れがあります。
- 雨風の吹き込むことのないよう、サッシ部分等開口部の取り付け後に施工して下さい。

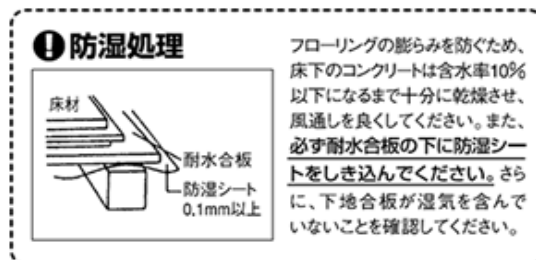
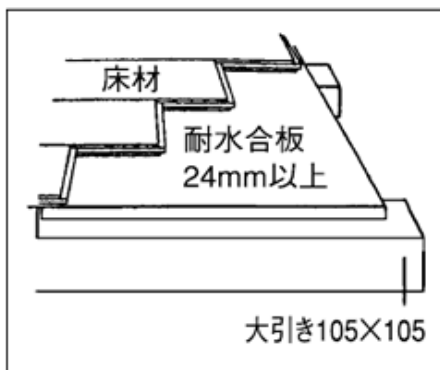
2. 下地施工 (根太あり)

- 大引きは90mm角以上、根太は45mm角以上の乾燥材を使用し、プランナーで平滑に仕上げてください。
- 大引き間隔は1000mmまたは3尺(910mm)、根太は1尺(303mm)とし、レベル(水平)を出して施工してください。
- 必ず合板の捨て貼りをし、合板は12mm以上の耐水合板を使用してください。また、捨て貼り合板同士の間は、2~3mmあけて施工してください。
- 0.1mm厚以上の防湿シートを根太と捨て貼り合板の間にしき込んで施工してください。
- フローリングは根太と直交するように施工し長手方向のジョイントは根太上に来るようにしてください。



2. 下地施工 (根太なし)

- 大引きは105mm角以上の乾燥材を使用し、プランナーで平滑に仕上げてください。
 - 大引き間隔は1000mm又は3尺(910mm)とし、レベル(水平)を出して施工してください。
 - 必ず24mm以上の耐水合板を貼ってください。
 - 0.1mm厚以上の防湿シートを根太と捨て貼り合板の間にしき込んで施工してください。
- <マンション・集合住宅の場合>
置床において仕上げの場合、パーティクルボード20mmの上に12mm以上の合板の下貼り施工後、換気設備による全換気の実施をお願いします。



3. 仮並べ

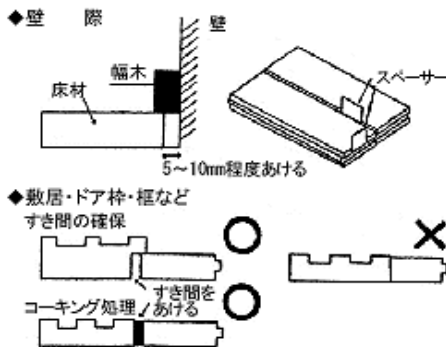


- 天然木のため一枚一枚異なります。貼り始める前に仮並べをし、色、柄のバランスをとって施工して下さい。
- パインフローリングは北欧基準のA品にあたります。多少の欠点(ヤニ筋、ヤニ壺、黒節・死節、欠け・抜け節、節割れ、軽微な割れ等)が含まれる場合があります。
- 極端に色、柄などおかしいものがあれば、貼らずにご相談下さい。

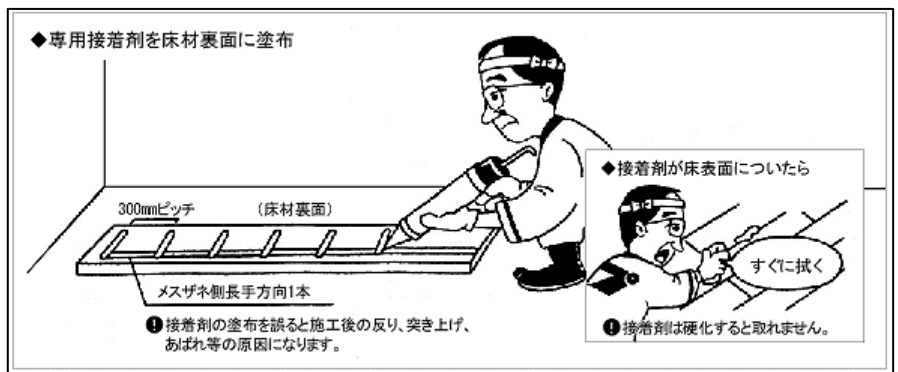
4. 割り付け

- 極端に小幅材がこないよう、貼り込み前に割り付けを行って下さい。
- 下地合板のジョイント部分とフローリングのジョイント部分が重ならないようにして下さい。

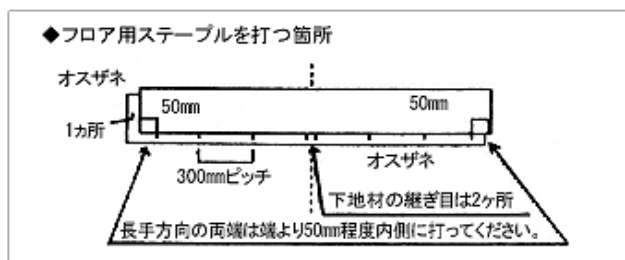
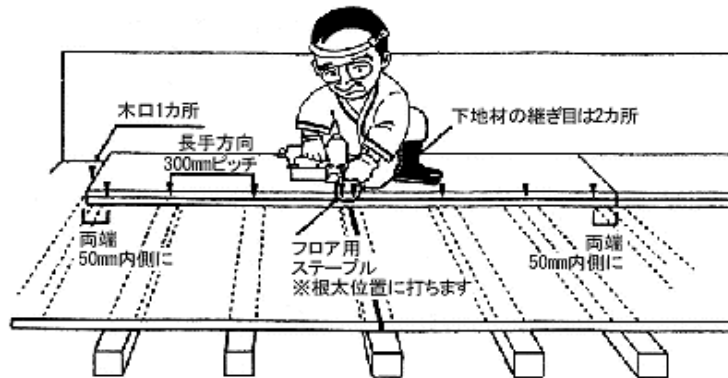
5. 貼り込み



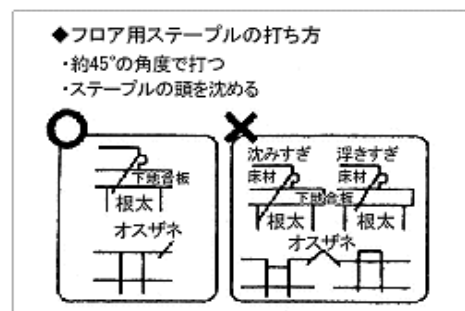
- 施工は必ず接着剤とフロア用ステーブルの併用で行ってください。
- 接着剤はF☆☆☆☆認定の1液型ウレタン樹脂系接着剤を使用して下さい。
- 水溶性の接着剤は床鳴りの原因となるため使用しないでください。
- サネやその近接部には接着剤を使用しないでください。
- サネを強く叩き込み過ぎると、無垢材の性質上、反り、突き上げの原因となります。必ず同梱包の「スプーサー」を使って、ジョイント部にクリアランスをとってください。また壁際は5～10mm程度、あけてください。
- はき出し窓サッシへの納め、又敷居(同面)納めの場合は必ずクリアランスをとり、コーキング処理して下さい。



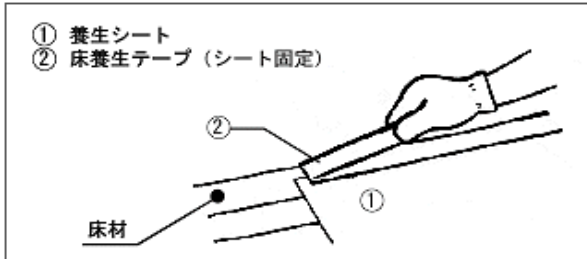
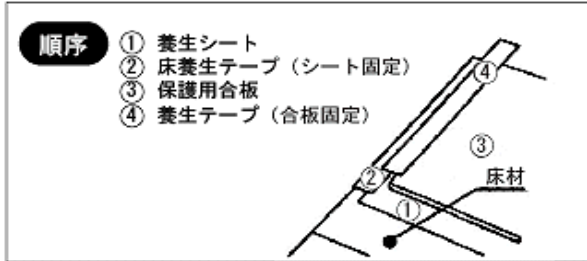
6. フロア用ステーブルで固定



- ①ステープルを立てて打つと、オスザネ下部が破損し、メスザネが入りにくくなります。ステープルをねかしすぎると、表面にフクレがおこる場合があります。



7.養生



- 施工後はごみをきれいに取り除いて、養生シートで養生して下さい。
- 壁ぎわは、石膏ボードの粉がたまりやすく、しかも木目に入るとほとんど取れません。壁ぎわまで隙間なく養生テープを貼って下さい。
- 床養生テープは必ず弱粘性(粘着力750g/25mm以下)のものをご使用ください。推奨品:光洋化学株式会社 カットエースUG
- 床養生テープを長期間貼ったままにしていると、テープを剥がす際にフローリング表面の塗膜が剥がれたり、のりが残ったり、毛羽立ちが大きくなります。また、日光が当たる箇所は同様の問題が起こりやすくなりますので、ご注意ください。

- 無塗装品は特に表面破損や変色が起こりやすいため、絶対に床養生テープをフローリングに直接貼らず、養生ボード等を使用してください。
- 床養生テープを取り除く際は、フローリング表面の塗膜剥離を起こす恐れがありますので、テープを床面と平行にしながらゆっくりと剥がして下さい。

- 先に保護用合板を固定するテープを剥がし、次に養生シートを固定するテープを剥がしてください。まとめて剥がそうとすると余分な負荷が加わり、フローリング表面の塗膜剥離を起こす恐れがあります。
- ※以上の点を守っていただいた上で、万が一塗膜剥離が起きた場合はご連絡ください。その際、剥離部分が付着したテープは捨てずに保管していただくようお願いします。

<施工後に確認>

- 施工の際、傷が入っていませんか？
- 養生は完璧ですか？
- この説明書は必ず施主様にお渡し下さい。

8.初期メンテナンス

- 適切なワックスを塗布することにより、フローリングの表面を保護し、より長持ちさせることができます。
- ご使用のフローリングに適したワックスを選択し、容量用法をご確認の上で塗布してください。
- ご入居前後のお手入れを正しくおこなっていただくためにも、使用したワックスや塗料の名称等をお施主様にお伝えください。

施工上の注意 | SOFT WOOD フローリング 無塗装

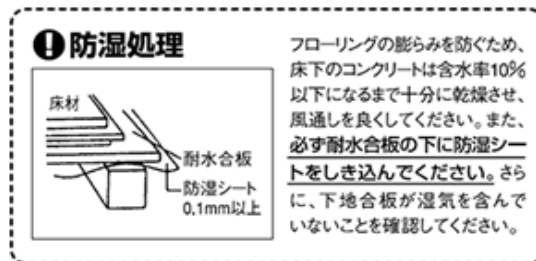
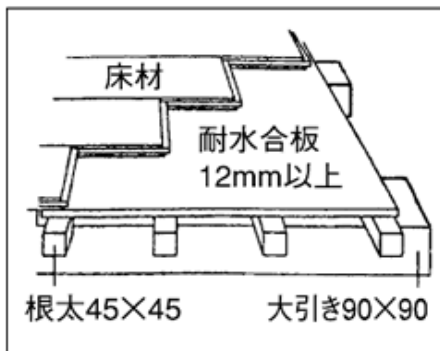
天然無垢材の性質上、空気中の水分を吸湿及び放出する働きがあります。そのため保管状況や使用環境によって、反り、割れ、狂いなどを引き起こす場合があります。よりよい施工とお施主様の快適な暮らしのために施工説明をよくご覧いただき、無垢材の特徴をご理解の上、ご検討ください。なお、これらを守って施工いただけない場合、製品の補修、交換などには応じかねます。

1. 施工前に確認

- 針葉樹の場合、開梱後に長時間放置されますと、施工現場の環境により、反り、曲がり表面割れなどが発生する恐れがあります。ご注意ください。
- 当製品は、内装用です。外装には使用しないで下さい。
- 当製品は床暖房用ではありません。
- 換気口は充分ですか。(建築基準法施工例: 外壁の床壁部に、長さ5m以下毎に300cm²以上の換気口設置)
- 床下の換気が充分でない場合、施工後に暴れ、突き上げ、床鳴り等が発生する恐れがあります。
- 雨風の吹き込むことのないよう、サッシ部分等開口部の取り付け後に施工して下さい。

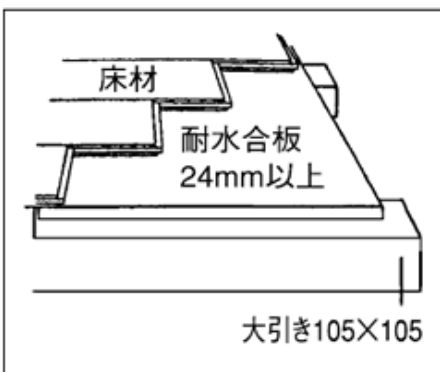
2. 下地施工 (根太あり)

- 大引きは90mm角以上、根太は45mm角以上の乾燥材を使用し、プランナーで平滑に仕上げてください。
- 大引き間隔は1000mmまたは3尺(910mm)、根太は1尺(303mm)とし、レベル(水平)を出して施工してください。
- 必ず合板の捨て貼りをし、合板は12mm以上の耐水合板を使用してください。また、捨て貼り合板同士の間は、2~3mmあけて施工してください。
- 0.1mm厚以上の防湿シートを根太と捨て貼り合板の間にしき込んで施工してください。
- フローリングは根太と直交するように施工し長手方向のジョイントは根太上に来るようにしてください。

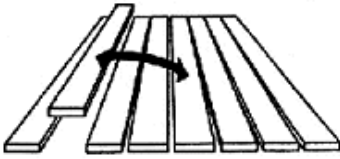


2. 下地施工 (根太なし)

- 大引きは105mm角以上の乾燥材を使用し、プランナーで平滑に仕上げてください。
 - 大引き間隔は1000mm又は3尺(910mm)とし、レベル(水平)を出して施工してください。
 - 必ず24mm以上の耐水合板を貼ってください。
 - 0.1mm厚以上の防湿シートを根太と捨て貼り合板の間にしき込んで施工してください。
- <マンション・集合住宅の場合>
置床において仕上げの場合、パーティクルボード20mmの上に12mm以上の合板の下貼り施工後、換気設備による全換気の実施をお願いします。



3. 仮並べ

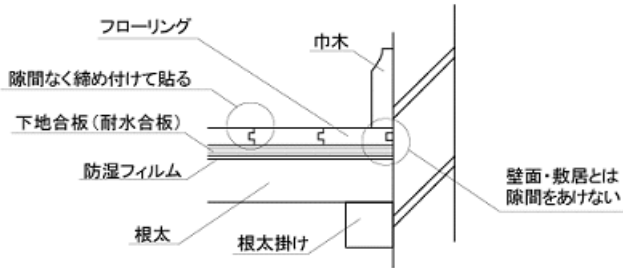


- 天然木のため一枚一枚異なります。貼り始める前に仮並べをし、色、柄のバランスをとって施工して下さい。
- パインフローリングは北欧基準のA品にあたります。多少の欠点（ヤニ筋、ヤニ壺、黒節・死節、欠け・抜け節、節割れ、軽微な割れ等）が含まれる場合があります。
- 極端に色、柄などおかしいものがあれば、貼らずにご相談下さい。

4. 割り付け

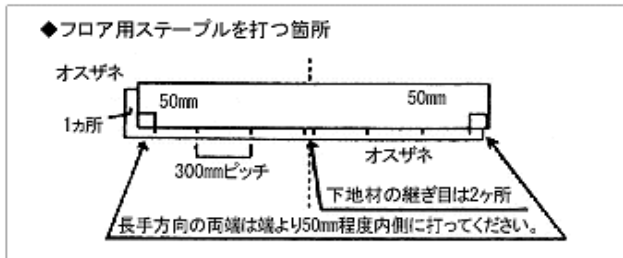
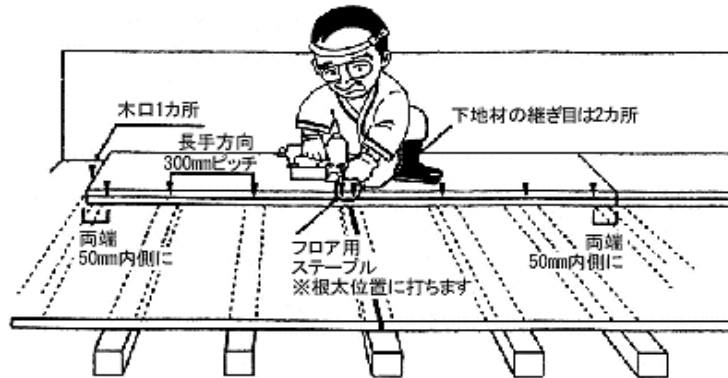
- 極端に小幅材がこないよう、貼り込み前に割り付けを行って下さい。
- 下地合板のジョイント部分とフローリングのジョイント部分が重ならないようにして下さい。

5. 貼り込み

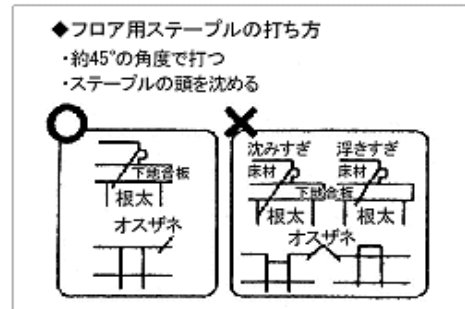


- 各フローリングは隙間を設けず締め付けて貼り上げて下さい。
- 壁面（敷居や框が壁面となる場合も）と隙間を設けず貼り上げて下さい。
- フロア用ステープルをご使用下さい。
- 接着剤を併用される場合、F☆☆☆☆認定の1液型ウレタン樹脂系接着剤を使用して下さい。
- 水溶性の接着剤は床鳴りの原因となるため使用しないでください。
- サネやその近接部には接着剤を使用しないでください。

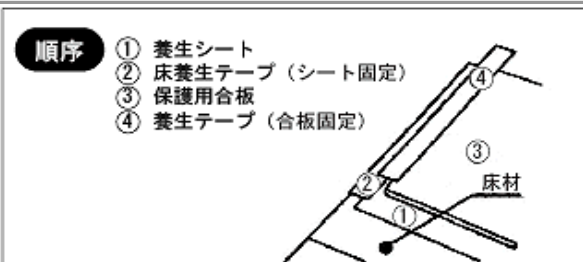
6. フロア用ステープルで固定



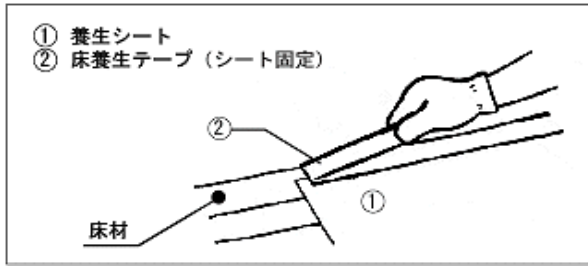
- ① ステープルを立てて打つと、オスザネ下部が破損し、メスザネが入りにくくなります。ステープルをねかしすぎると、表面にフクレがおこる場合があります。



7. 養生



- 施工後はごみをきれいに取り除いて、養生シートで養生して下さい。
- 壁ぎわは、石膏ボードの粉がたまりやすく、しかも木目に入るとほとんど取れません。壁ぎわまで隙間なく養生テープを貼って下さい。
- 床養生テープは必ず弱粘性（粘着力750g/25mm以下）のものを
ご使用ください。推奨品：光洋化学株式会社 カットエースUG
- 床養生テープを長期間貼ったままにしていると、テープを剥がす際にフローリング表面の塗膜が剥がれたり、のりが残ったり、毛羽立ちが大きくなります。また、日光が当たる箇所は同様の問題が起こりやすくなりますので、ご注意ください。
- やむを得ず長期間（1カ月以上）貼ったままにされる場合は、養生テープをフローリングに直接貼らないようにして下さい。



●無塗装品は特に表面破損や変色が起こりやすいため、絶対に床養生テープをフローリングに直接貼らず、養生ボード等を使用してください。

●床養生テープを取り除く際は、フローリング表面の塗膜剥離を起こす恐れがありますので、テープを床面と平行にしながらゆっくりと剥がして下さい。

●先に保護用合板を固定するテープを剥がし、次に養生シートを固定するテープを剥がしてください。まとめて剥がそうとすると余分な負荷が加わり、フローリング表面の塗膜剥離を起こす恐れがあります。※以上の点を守っていただいた上で、万が一塗膜剥離が起きた場合はご連絡ください。その際、剥離部分が付着したテープは捨てずに保管していただくようお願いします。

<施工後に確認>

- 施工の際、傷が入っていませんか？
- 養生は完璧ですか？
- この説明書は必ず施主様にお渡し下さい。

8.初期メンテナンス

- 適切なワックスを塗布することにより、フローリングの表面を保護し、より長持ちさせることができます。
- ご使用のフローリングに適したワックスを選択し、容量用法をご確認の上で塗布してください。
- ご入居前後のお手入れを正しくおこなっていただくためにも、使用したワックスや塗料の名称等をお施主様にお伝えください。

施工上の注意 | 福杉 ウッドデッキ

1.施工前に準備 ※下地コンクリート 1坪タイプの場合



工具

- インパクトドライバー

注)トルクが要するため電池式よりコード付きを推奨します。電池式の場合は常時充電のため、電池が2個必要です。

- インパクトドライバー用 角型#3ビット
- 電動ノコギリ、またはノコギリ
- #19スパナ、またはモンキーレンチ2本
- ハンマー
- 差し金、水平器
- チョーク、鉛筆、スケール、カッター 注)墨だし器、チョーク、下げ振り器などがあると便利です。



材料

- 専用束金具 BIKメッキ(8本入)×2ケース
 - ビス 6x65 (100本入)×3箱
 - 根太ボンドまたはコンクリート釘(9#38m/m)
 - 福杉ウッドデッキ材 30×89×1,820mm(10枚入)×3ケース
- ※根太作成用10枚とデッキ天板用20枚を選んでください。
- 福杉ウッドデッキ材 30×140×2,430mm(5枚入)×1ケース
- ※ウッドデッキ材、鋼製束(こうせいづか)、及びビスは当社で販売しております。鋼製束用ボンドはホームセンターなどでお買い求めください。

2.位置を決める



ウッドデッキを設置したい場所に束金具を並べて、高さを決めます。

※当社福杉ウッドデッキ材は無垢材です。排水には十分ご注意ください。
 ※当社福杉ウッドデッキ材は不燃材ではありません。不燃認定の必要な場所にはご使用いただけません。

3.根太を作る



- ①福杉ウッドデッキの30×89×1,820mmを、2枚用意します。
- ②①のサイズと同じものを長さ150mmにカットした中間材を、端から150mmの位置に挟み、さらに鋼製束をはめます。
- ③このとき挟んだ中間材が浮き上がってきた場合は、ハンマーで押さえ、両側からビスで固定します。
- ④もう一方の端も同様にして鋼製束を固定します。
- ⑤等間隔になるように、さらに2か所中間材を挟んで、両側から2か所ずつビスで固定します。
- ⑥ウッドデッキ1坪タイプの場合、⑤を4セット作ります。

4.根太を組む



- ①根太を455mmピッチで並べて、端に天板となるウッドデッキ30×89×1,820mmを置きます。
- ②これの両端1か所ずつビスで留めて根太に仮止めします。
- ③水平器を置いて、ウッドデッキ材が水平になるように鋼製束の高さを微調整します。
- ④差し金を使い、根太とウッドデッキ材を直角に合わせます。両端とも同様に直角にします。
- ⑤鋼製束のナット(各2か所)をしっかりと閉めます。
- ⑥ウッドデッキ材の両端もう1か所ずつビスで留めて根太に固定します。
- ⑦鋼製束をコンクリート釘または鋼製束用ボンドで固定します。鋼製束用ボンドを使用する場合、鋼製束の足の位置に印をつけ、中心部に鋼製束用ボンドを入れます。
- ⑧隙間からボンドが盛り上がるくらい、しっかりと地面に圧着します。

4.ウッドデッキを張る



- ①ウッドデッキ材と根太と重なる部分を2か所ずつ、1枚につき合計8か所ビスで固定します。
- ②それぞれのウッドデッキ材の間は雨水が抜けるように3～5mm間隔を開けて張ります。
- ③側面に福杉ウッドデッキ材30×140×2,430mmを幕板として張ります。

5.施工後



当社、ウッドデッキ材の無塗装品および塗装品は、防腐処理を施しておりません。年に1度は外装用防腐塗料を塗布してメンテナンスを行ってください。